

“花火”

7歳児 台湾

幼年美術

603

2019 8月号

発行所 大阪府東大阪市長田中4丁目6-3

ペンてる(株)大阪支社内

全国幼年美術の会 〒577-0013 ☎ (06)6747-1601

発行人 木代喜司

年間購読料 3,000円 1部300円(送料込み)

第49回世界児童画展

作品より



“くじらさんとなまたち”

4歳児 大阪府



“なみにゆられて”

5歳児 岡山県



描画活動や造形活動の導入で
絵本が使われることがあります。

もちろん、その絵本を効果的に
用いることで、これから始まる
活動への意欲を高めたり、子供たちの発想や
構想を引き出したりできることはあります
う。

しかし、時に、絵本を長々と読み聞かせす
る必要などどこにも見当たらないような場面
に出会うことのもしばしばあります。

それは年少児(三歳児)の絵の具遊びの導
入でした。最近注目されている絵の具と色の
お話の絵本の読み聞かせがはじまりました。
絵の具と手の出会いから始まり、色と色が混
じり合って変化していく様子を通して、子供
たちの色への興味や関心を高めていきます。
先生は「赤と黄色が混じると……?」と
問い合わせ、経験のある子供が「オレンジ」と
応じます。それなりに効果的に、そして対話
的に導入が進んでいくように見えました。

しかし、そのあと、真っ白な模造紙が敷き
詰められ、張りめぐらされた保育室を見た瞬
間の子供たちの目の輝きと、その後の活動の
様子を見た時に、果たして、直接この環境に
子供を連れてきて、絵の具を置いておくだけ
ではこの活動は始められなかつたのだろう
か?との疑問が湧きました。

「白を混ぜると明るい色に、黒を混ぜると
暗い色に……」などと絵本を用いて教えるこ
とが導入が必要だったのか、子供不在の「導
入のための導入」になつていいのではないか、
と感じたのでした。



いろいろな活動を通して見られる 子ども達の笑顔と表現

和歌山幼年美術の会 宮保育所 堀内朋子



はじめに

私の勤務する宮保育所では、保育指針の改定に伴い、園外研修や、職員間での話し合いによる園内研修を充実させ、子ども達の育ちに大切なことは何か、毎日喜んで「保育所に行きたい」「先生大好き」と登園してもらうにはどうすればよいかをみんなで考えてきた。

子ども達が、何かをやらされているのではなく、自分のしたいことを

自分で考え、思い切りできることや、友達と協力し合つたり豊かな表現をしたり出来ることではないだろうか。そのために、私たち保育士は環境を整え、関わり方の工夫をしなければならないと思う。

全身で表現

夏のある日、3歳児のクラスで担任保育士が、ダンスや体操の音楽を数曲流し、子ども達の反応を見ていた。ひときわノリがよかつたのは『もぐらのサンデイ』だった。♪ほ

る、ほる、ほるほる／あなたをほる／の歌詞に合わせて、あちらこちらで両手を使ってトンネルを掘り進むような仕草を始め、メロディに合

む。ひときわノリがよかつたのは『もぐらのサンデイ』だった。この日から子ども達は、もぐらのサンデイが大好きになつた。

『もぐらのサンデイ』を踊るようになると、戸外遊びの時に砂場でスコップを持って、砂を掘りながら、♪ほる、ほる、ほるほる／あなたをほる／と歌っている声が聞こえるようになつた。

『もぐらのサンデイ』の振り付けはあつたが、子ども達の自然な発想による動きを中心に、ダンスは仕上がりつつあつた。その頃になると、砂場ではスコップをシャベルに持ち替えて相変わらず♪ほる、ほる、ほるほる／あなたをほる／と砂遊びをしていた。

そこで、担任保育士は、運動会の遊戯にシャベル持つて踊れないかと考えた。曲に合わせて踊つてみたが、やはり、3歳児には「踊りにくい」という感想だつた。保育士は、「や

っぱり、シャベルはやめておこうか」とあきらめかけたが、子ども達は、それでも持つて踊れるように穴を掘る練習を始めた。穴を上手に掘れるようになると、踊ることも出来ると思つていたようである。実際に、子ども達はシャベルを上手に扱えるようになり、見事に踊ることができた。問題は、穴である。隣の高校のグラウンドを借りての運動会なので、シャベルで穴を掘る訳にはいかない。そこで、担任保育士はカラーフープを子どもの人数よりも多く並べたりトンネルを置いたりしてみた。子ども達は益々もぐらになりきり、喜んで踊つた。

運動会を終えて、もぐらのサンデイの絵を描いた子が多く、お話や思ひのいっぱい詰まつた、とても楽しそうな絵がたくさん出来た。

ある日、担任保育士は、子ども達を喜ばせようと考へた。マヨネーズの容器を使つてもぐらを沢山作り、登園する前の砂場に埋めておいた。「子ども達はびっくりするかな、喜ぶかな」と様々な子どもの顔や反応を思い浮かべ、わくわくしながら一つ一つ埋めていった。

子ども達が登園し、戸外遊び。いつものようにスコップや茶わんを持



つて砂場へ直行した。担任保育士が砂場の様子を気にしていると、「あつ！ もぐら」しばらくして「あつ！ またもぐら」「もつと探そう！」と次々出てくるもぐらに大満足だった。その後は、子ども達がもぐらの人形をかわるがわる抱えて離さず、ままでとの一員にしたり、自分たちで砂場に埋めたりしていた。気付くと1匹いなくなってしまった。みんな、「どこいったんやろう？」「見つからんない」とずっと気にかけていたが、約2週間後、砂の中から見つかった時は歓声がわいていた。

育士は「どんなケーキを描いてくれるだろうか」と、大きな紙を広げ、ポスターカラーをといて、太い筆を準備した。

紙が大きく、ケーキを塗るのが大変そうだったが、子ども達はそれも楽しんでいるようで、みんなで力を合わせて一気に描き上げた。大きな紙に大きなケーキが描かれ、子ども達自慢の劇のセットが出来上がった。

そして、生活発表会当日は、大勢の保護者の方に観られる中、全員が生き生きと『もぐらのサンディのおたんじょうび』を演じ切り、クライマックには、ステージ上で自分たちの描いたケーキの周りにスタンピングをして飾る姿も観て頂いた。

「ケーキの出来上がりです」と広げた時には、会場で歓声が上がり、子ども達も大喜びだった。

更にイメージを膨らませていった。もぐらの絵を描くと、担任保育士がそれにバンドを付け、お面にした。お面を付け喜ぶ子ども達。3歳児なので難しいお話は作れないが、サンディの誕生日会をしてあげようという簡単な話ができた。サンディの友達には、犬・うさぎ・かめ・へびなど、なりたい動物になつて、配役も決まりた。動物のお面も思い思に特徴をつけ、かわいく仕上がつていた。

子ども達が「ケーキをつくつてあげないといけない」と言うので、保

育士は「どんなケーキを描いてくれるだろうか」と、大きな紙を広げ、ポスターカラーをといて、太い筆を準備した。

紙が大きく、ケーキを塗るのが大変そうだが、子ども達はそれも楽しんでいるようで、みんなで力を合わせて一気に描き上げた。大きな紙に大きなケーキが描かれ、子ども達自慢の劇のセットが出来上がった。

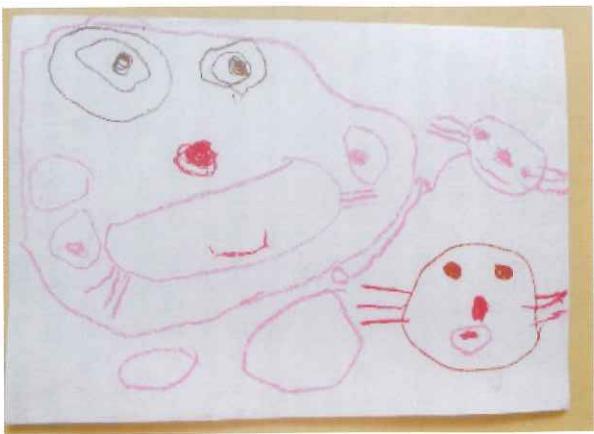
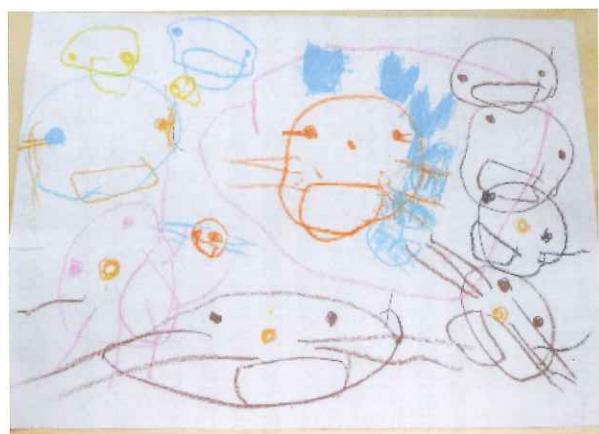
そして、生活発表会当日は、大勢の保護者の方に観られる中、全員が生き生きと『もぐらのサンディのおたんじょうび』を演じ切り、クライマックには、ステージ上で自分たちの描いたケーキの周りにスタンピングをして飾る姿も観て頂いた。

「ケーキの出来上がりです」と広げた時には、会場で歓声が上がり、子ども達も大喜びだった。

それから3ヶ月ほど経ち、もぐらの印象も薄れてきた頃、一所懸命に砂場で穴を掘る子がいた。担任保育士が「○○ちゃん何しているの？」と声をかけた。すると、その子は保育士の顔を見上げ、「もぐら!!」と叫んだ。担任保育士は、まだつづいていたんだとほほえましく感じたそ

うである。

葉・絵など、いろいろな方法で行う。自分の経験したこと・知っていること・感じたこと・こうなりたいという希望などを誰かに伝えたい気持ちがあるので、一生懸命に表現していく。子どもの想いがこもった絵は、生き生きと描かれ語りかけてくるようである。私達保育士は、子ども達にたくさんの経験を出来る環境と、子どもの「楽しい！」や「聞いて！」をどんどん引き出すような言葉がけをし、子どもがそれを満足するまで表現できるような環境づくりをしていかなければならないと思う。



广告

Discover the best
Pentel

○○色々なものに描けて水で落とせる

共同制作えのぐ

紙以外にも、
ガラスやペットボトル等の
非吸収面に描くことができ、
水で落とせます



280 ml



※結露時や湿度が高い時はべたつくことがあります。

品名	色名	品番	小売価格	包装単位	单品JAN
色々なものに描けて 水で落とせる 共同制作えのぐ	12色セット	WMG2-12	1セット￥8,160+消費税 1個￥680+消費税	1セット 10個	177452
	ペールオレンジ	WMG2T04			177292
	ちゃいろ	WMG2T08			177315
	しゅいろ	WMG2T10			177339
	あか	WMG2T11			177346
	きいろ	WMG2T12			177353
	ももいろ	WMG2T15			177377
	きみどり	WMG2T17			177384
	みどり	WMG2T21			177391
	あお	WMG2T23			177407
	くろ	WMG2T28			177421
	しろ	WMG2T29			177438
	そらいいろ	WMG2T61			177445

※JANコードは最初に4902506をつけてください。

達の興味関心を見逃さず、それに則した展開の環境、或いは環境の展開を整え続けられる様子が、飽きることなく伝わってきます。当事者のことどもと先生達が羨ましくもあります。既にご経験済みの先生方もいらっしゃるのかもしれません、生活発表の場面での、「ステージ上で自分たちの描いたケーキの周りにスタンディングをして飾る姿も観て頂いた」という実践には、思わず拍手をして頂きました。

ことどもの思いや言葉、又行動から、あらゆる表現を殊更に分けることもなく、一体となつた経験や、それ誰かに伝えることの出来る環境構成に尽力される姿を、大いに学ばせていただきたいですね。

ことから派生した、「導入」であると考えられますね。ここまで極端なものでなくて、活動そのものにとつて意味のない、「導入のための導入」というものもありますから、お互いに気をつけていきたいのです。そういう意味でも、今回の和歌山幼美からのご寄稿「流石に和歌山幼美!」とワクワク読ませていただきました。更に、多くの学び處を紹介いただいています。こども

巻頭言は、本年から新しく副会長に就任いただいた大橋功先生です。こども不在の「導入のための導入」の一例を指摘くださっています。活動内容を自然な形で展開するための「導入」が、その目的を逸脱し単なる通過儀礼的なもの、マニュアル化されたもの、或いは活動目的そのものが不純なものであることから生じるナンセンスな導入になつているのではないかと考えられます。ご指摘のケースは恐らく、混色の知識を教え込み、絵具の活動をしようとしたのでしよう。活動目的自体が不純である

あ
と
が
き